

# 昭和十三年大洪水

(一) 昭和十三年 六月下旬 七月上旬 洪水

氣 象 (附圖第一圖・第二圖参照)

昭和十三年六月廿一日夕刻サイパンの北東方に發生せる七百五十六耗の低氣壓は、極めて徐々に發達しつつ北西に移動し、廿五日硫黃島の西方にて進路を西に轉じ、廿八日正午大東島の東方約三百耗の海上に進みて中心示度七百三十二耗に發達し、之より急に方向を北東に變ぜしが、此低氣壓の爲め富崎・八丈島間に西南西に走る不連續線發生し、東海道及關東地方に降雨を伴ひ、颱風の發達と不連續線の北上とにより未曾有の大豪雨を惹起せり。

而して颱風は、卅日朝八丈島の南西二百耗の海上に於て示度七百三十耗時速六十四耗に達し、卅日正午銚子沖を通過する頃より雨漸く歇み、七月二日千島北部に於て北西に轉向、ループを畫きて漸く東方に去れり。

不連続線の位置は、最も強雨なりし廿九日午前十時に於て、鹿島より佐倉・千葉・勝山を経て御前崎の北方に達したるが如く、實に關東地方の豪雨は此顯著なる不連続線に禍せられたるものにして、從ひて降雨分布も亦此不連続線の附近に多く、等雨量線の比較的規則正しきは之を證するに足る。

今廿七、廿八、廿九三日間の等雨量線圖(第二圖)を見るに、静岡縣富士町より東京を経て水戸に通ずる線、即ち概ね東海道線及常磐線の沿線は四・五百耗の最多雨地にして記録的雨量を示し、此線より北西又は南東に遠ざかるに従ひて減量を示せり。

#### 出 水 (附圖第四・第五・第六・第九・第十・第十一・第十二・第十三・第十四圖參照)

前記の如く未曾有の豪雨により、關東平野は約四十萬町歩に浸水し、早きは兩三日にして減水したれ共、霞ヶ浦・北浦等の沿岸は湛水月餘に及び、又印旛沼の如きは八月下旬に至るも尙平水以上〇・六米を有し、全く平水に復するに至らずして九月の出水に遭遇せるの状態なり。以下各河川湖沼に付きて略述すべし。

久慈川は、未曾有の洪水となり、堤塘を缺潰して八千町歩の耕宅地に氾濫したれ共、尙水位は西小澤に於て計畫高水位以上〇・二六米に達せり。

櫻川は、全川廣區域に互りて氾濫し、土浦町は上流左岸堤の缺潰により全市街に氾濫し、深き所は軒先を没し、鐵道以外の交通は小船によるの慘狀を呈せり。

霞ヶ浦は、恰も多雨地に流域を有する櫻川・園部川・戀瀬川・小野川・新利根川等の洪水を容れ湖面はY・P・上三・三五米に達し、利根川改修工事竣功後に於ける最高水位を示せり。然るに唯一の排水口たる北利根川の排疏充分ならざるが爲め、湖面容易に低下せず、延て沿岸の水害を増大せしめたるにより、排水の一助として便宜横利根閘門の門扉を開放し、以て利根川に放流せしめたれ共、尙平水に復するに一ヶ月を要せり。

印旛沼はY・P・上六・〇六米に上昇し、利根川改修工事竣功後の最高水位を示し、附近一帯に氾濫せり。

小貝川も亦未曾有の大洪水となり、上流部眞岡町附近は、左岸丘陵より右岸眞岡町高臺に至る間一面に氾濫し、下流部に於ては右岸豊田村の破堤により、之より下流の廣大なる耕宅地を浸し、北海道町の如きは其の大半浸水して深き箇所は二米に達し、一時物資の配給に困難を來せり。而も尙水位は上郷に於て既往最高水位たりし明治四十三年及大正二年の水位を突破するの高位を示せり。

渡良瀬川、本川筋は中洪水程度なりしが、支川は孰れも大出水を來し、袋川筋に於て浸水面積八百

町歩、巴波川筋に於て千百町歩、姿川筋に於て二千町歩に及べり。

其他利根本川・鬼怒川・荒川・多摩川及富士川等の大河川に於ては孰れも中洪水程度に止まれり。

浸水面積 (附圖第四圖)

流域	河川名	浸水面積	流域	河川名	浸水面積
利根川	本良瀬川	二、二〇〇町歩	久慈川		八、〇〇〇町歩
	渡良瀬川	二、五〇〇	那珂川		八、〇〇〇
	鬼怒川	一、四〇〇	沼沼川		二、〇〇〇
	小貝川	四、〇〇〇	荒川		一、〇〇〇
	霞ヶ浦・北浦	四三、四〇〇	多摩川・鶴見川		六、五〇〇
	印旛沼・手賀沼	一、六〇〇	中川		五四、〇〇〇
	計	一五三、五〇〇	東京市内	荒川流域を除く	二、五〇〇
江戸川		七、〇〇〇			

被害

久慈川筋にありては、改修工事起點たる世喜村より下流に於て二十二箇所の破堤を來し、又支川山田川筋は四箇所、里川筋は八箇所合計三十四箇所總延長二千二百米の破堤により六千餘町歩を浸し、

桥梁二箇所流失せり。

小貝川筋にありては、上流部眞岡町のみにも浸水家屋一千百戸、下流部水海道町に於て一千四百戸に達し、特に下流に於ける氾濫耕地は減水遅かりしにより農作物に大なる被害を及ぼせり。

上利根川筋に於ては、大なる被害なきを得たれ共、下利根川筋沿岸一帯は、豪雨の爲め約八萬町歩に亙る耕宅地に浸水して甚大なる被害を蒙り、又霞ヶ浦に莅める土浦町の如きは、櫻川堤防の缺潰によりて全市街浸水し、損害總額約一千百萬圓に達する慘狀にして、市街地の排水は焦眉の急に迫ると雖も、霞ヶ浦の自然減水を待つときは晴天一ヶ月餘に亙るべきに依り、唧筒排水を行ふ事に決し、急遽準備を整へ、唧筒八臺(四百五十馬力)費用約二萬圓を以て七月十三日排水に着手し、同二十三日迄に約二百萬立方米の湛水を排除し、漸く水禍より救ひ出せるの狀態なり。

新利根川筋にありては、湛水多きに加へ牛久沼佐貫堤防缺潰して新利根川流域内に氾濫し、且霞ヶ浦湖面容易に低下せざりしが爲め、一萬町歩の耕地を浸し、農作物の被害額約五百六十萬圓に達せり。

霞ヶ浦・北浦・北利根川及び常陸川沿岸の低濕耕地は、浸水永きに亙りしが爲め、收穫皆無となれるもの廣區域に及べり。

鬼怒川筋にありては、支川田川の沿岸に氾濫して水害を蒙り、渡良瀬川筋にありては、渡良瀬遊水池の北方部屋村・生井村一帯の耕地は排水機運轉不能の爲め約一千百町歩に湛水して稻禾枯死するに至れり。

中川筋にありては、五萬四千町歩の耕宅地に浸水して甚大なる被害を蒙り、損失額一千八百六十萬圓に達せり。

昭和十三年 七月下旬被害

府縣名	死者	傷者	計	床上浸水	床下浸水	計	被害反別	被害額
東京	二九	三六	六五	三、六四〇	二、四一七	六、〇五七	一、七〇〇	一、七〇〇
神奈川	三三	五九	九二	一〇、一〇七	一〇、八七六	二〇、九八三	一、六六六	一、六六六
山梨	二	二	四	一〇、八七六	一〇、八七六	二一、七五二	一、〇〇〇	一、〇〇〇
埼玉	二	二	四	一、七五二	一、七五二	三、五〇四	一、〇〇〇	一、〇〇〇
群馬	一	一	二	一、七五二	一、七五二	三、五〇四	一、〇〇〇	一、〇〇〇
千葉	八	二二	三〇	一、七五二	一、七五二	三、五〇四	一、〇〇〇	一、〇〇〇
茨城	二	三	五	一、七五二	一、七五二	三、五〇四	一、〇〇〇	一、〇〇〇
栃木	七	三〇	三七	一、七五二	一、七五二	三、五〇四	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合計	一五二	一九六	三四八	五、六四五	一九、四三三	二五、〇八八	五、五〇〇	五、五〇〇

備考 本表は各府縣報告に依るものなり。其内被害金額は農林、商工、水産、土木等各方面に於ける直接損害額を計上せるものなり。

(二) 昭和十三年 八月下旬洪水

氣 象 (附圖第一圖・第三圖参照)

昭和十三年八月廿六日朝、北緯二十五度東經百五十二度に發生せる低氣壓は、進路を北西に採り次第に發達して卅一日正午八丈島を通過し(示度七百二十七糎)、之より進路を北方に變じ、九月一日午前零時七百二十三糎に發達して三浦半島に上陸し、横須賀を過ぎ、午前二時には横濱の西方五糎の地点を通過し、午前六時熊谷と忍町の中間を過ぎ、之より北々東に進み北海道を中斷してオホツク海に去れり。

此強烈なる颱風により關東地方に於ては暴風雨となり、最大風速は富崎に於て南四三・五米、銚子南東二二・六米、筑波山東南東四三・八米、秩父北一六・一米、宇都宮南々東二三・三米に達し、八月卅日より九月一日に至る三日間雨量は、多摩川・荒川・神流川・渡良瀬川及び鬼怒川の水源地に於て三百糎乃至四百糎を示せり。其内日雨量の最大を見るに、神流川・渡良瀬川及び鬼怒川流域は記録的の最大量にして、又一時間最多雨量は、三峰四六糎、足尾五二糎、萬場六〇糎を算せり。

然るに利根本川のみは水源地に於て三日間雨量百耗以下、平地部に於て百耗乃至二百耗程度なりしが爲め、上利根川筋に大洪水を起すに至らざりしは幸なり。(附圖第三圖参照)

#### 出 水 (附圖第七・第八・第九・第十・第十一・第十二・第十三・第十四圖参照)

多摩川上流部は、略々明治四十三年の大洪水に匹敵し、調布町石原に於て計畫高水位以上〇・一七米に達せしが、下流部に於ては中洪水程度に止まれり。

荒川上流部にありては、既往の最高水位たる大正三年を凌駕する記録的の數字を示せるも、下流部に於ては破堤氾濫ありしが爲め既往最高の昭和三年洪水に次ぐの高位に止まり、佐谷田に於て計畫高水位以上〇・三八米、古谷に於て恰も計畫水位と同高なり。

神流川の水位は、既往最高たりし大正三年と殆んど同高にして、牛田に於て計畫の水位を〇・五三米超へたり。

渡良瀬川にありては、上流部は既往最高たる明治卅五年の水位に次ぐの高位なれども、下流部にありては實に未曾有の大洪水にして、岩井に於て計畫高水位以上一・三九米を突破するに至れり。思川も亦既往最高たりし大正三年の水位に次ぐの大洪水にして、小山に於て四・〇三米(大正三年四・〇九

米)に上昇せり。

鬼怒川にありては、上流部は既往最高たる大正三年の水位に次ぎ、下流部は略之と同高にして、水戸線川島鐵橋の如きは激流桁下を洗ひたれ共幸にして事なきを得たり。

利根本川にありては、上利根川は中洪水なりしが、中利根・下利根に於ては渡良瀬川及び鬼怒川の大洪水を容れたるが爲め、栗橋に於て計畫水位以上〇・六〇米、取手〇・一九、布川〇・二三、佐原〇・二七の高位を示せり。霞ヶ浦は降雨前の水位に比し増水〇・七米にして十月中旬に至り平水に復せり、印旛沼は徐々に増水して九月十二日三・四〇米に上昇し、十月初に至り平水となれり。

而して颱風の通過により起れる異常高潮は、東京灣羽田に於て〇・七米、品川に於て一・三二米と推算せられ、之が爲め多摩川羽田に於てはA・P・上三・六八米、新荒川小名木川閘門A・P・上三・二四米、隅田川靈岸島A・P・上二・一七米に昇り東京市内に水害を及ぼせり。

#### 被 害

久慈川にありては、六月下旬の出水により缺潰せる堤防三十四箇所の内、復舊工事中なりし十二ヶ所の假締切を缺壊せられ、又締切工事中にして之を缺潰せられたるもの二ヶ所、復舊工事未着手にし

て破壊により浸水を受けたるもの十ヶ所に達せり。

鬼怒川にありては、舊堤の缺潰六ヶ所、舊堤及無堤部より溢流せしもの十三ヶ所にして、氾濫面積四千町歩に達せり。又新堤にして漏水せしもの二ヶ所、護岸の破損三ヶ所(四一〇米)、水制の破損一ヶ所に及べり。

小貝川に於ては、水海道町及八間堀附近に浸水せる程度に止まり被害なきを得たり。

渡良瀬川にありては、未曾有の大洪水なりし爲め、本流及桐生川・旗川の堤防缺潰により、人家密集せる桐生市・足利市及其附近二千二百町歩に氾濫し、桐生市・毛里田村・相生村・川内村・大間々町に於ける浸水家屋五、四三一戸、死者九人に及び、足利市に於ては實に浸水家屋六、三九二戸に達せり。又維持區域の起點なる梁田村神明地先堤防は、洪水の激突により石張護岸二百米及堤體の半ばを破壊せられ頗る危険に瀕せしが、水防の宜しきを得て破堤の災厄を免れ得たり。支川思川にありては、小山上流に於て破堤したるが爲め、之より下流渡良瀬遊水池に至る間の耕地に氾濫し、再び大水害を蒙り收穫皆無に陥れり。

鍋川及神流川に於ても亦稀有の洪水なりしにより、鍋川橋及藤武橋流失せり。

荒川上流部に於ては記録的大洪水なりしが爲め、九月一日午前六時先づ熊谷の下流久下村舊堤防より溢水を始め、溢水延長三籽餘、氾濫千八百町歩に及び多數の流木堤上を越流したるも、對岸市田村舊堤防の缺潰により八時より減水して事なきを得たれども、市田舊堤防缺潰による被害は實に甚大にして、午前七時頃より八ヶ所(延長五百六十米)破堤し、下流市野川に至る間所謂吉見領二千五百町歩の美田に氾濫し、死者三十一名、浸水家屋三千戸に達する大慘事を惹起せり。此外入間川吐口附近其他の浸水面積五千二百町歩、浸水家屋六千九百戸を算せり。

荒川下流部にありては、高潮を伴ひたるが爲め、舊中川筋の堤防缺潰九ヶ所に及び、附近一帯の低地を浸し、減水遅々たりしが爲め甚大なる被害を及ぼせり。

多摩川にありては、上流改修區域内に於て新堤の崩壊及護岸の破損流失を蒙りたる所多く、堤防の崩壊及流失土量十八萬八千立米、護岸破損二千七百七十米に達せり。又下流部にありては、高潮に際し六郷水門の門扉開放の儘なりしが爲め、此部より逆流し、西は國道を隔て、北は呑川、東は海老取川により圍まれたる千五十町歩の工場地帯に浸水し、浸水家屋實に一萬二千戸に達せり。

昭和十三年九月一日颱風被害

府縣名	死者	傷者	計	床上浸水	床下浸水	計	橋梁流失	堤防缺潰	被害額(圓)
東京	七	七	計	三六、〇二〇	七、八七六	計	一〇一、六六	三	一、八、六、〇〇〇

(三) 雨量表

流域	地名	昭利十三年六月雨量				昭利十三年八月、九月雨量				計	既往最多雨量
		廿七日	廿八日	廿九日	計	八月廿日	八月廿一日	八月廿二日	九月一日		
合	計	一七六	三三六	四〇六	一〇八、三九九	一五四、三九四	二二六	三六三	八二、三三六、一、五三		
神奈川	山梨	一六	三三	三三	一〇七、七〇七	四〇、七	三	九〇	一七〇、三三〇、七〇		
埼玉	埼玉	〇	一四	一四	一〇、六	一、〇	二	九	一、〇、〇、〇		
群馬	群馬	二	五	一	二、一	一、〇	一	九	一、〇、〇、〇		
千葉	千葉	二	四	一	七、四	一、〇	一	九	一、〇、〇、〇		
茨城	茨城	二	一	一	一、一	一、〇	一	九	一、〇、〇、〇		
栃木	栃木	三	四	一	一〇、七	一、〇	一	九	一、〇、〇、〇		

流域	地名	昭利十三年六月雨量				昭利十三年八月、九月雨量				計	既往最多雨量
		廿七日	廿八日	廿九日	計	八月廿日	八月廿一日	八月廿二日	九月一日		
利根川	湯原	〇・六	二四・三	四三・六	六八・四	—	—	—	—	三六・六	一八八(明三)
片品川	三里塚	四・五	一五・〇	二〇・五	三九・五	二四・三	〇・三	〇・一	二六・〇	八二・〇	一三〇(昭八)
吾妻川	佐原	—	二六・七	一七・三	四四・〇	〇・三	〇・七	〇・〇	一〇・〇	六六・三	一〇〇(昭三)
香川	東小川	—	一九・三	四・〇	二三・三	〇・〇	一七・〇	〇・〇	一七・〇	一〇・〇	一四〇(大)
鳥妻川	大津	—	三三・〇	三三・六	六六・六	一〇〇・八	一〇・〇	九・五	一一一・三	一〇〇(昭一〇)	三三三(昭一〇)
碓氷川	三之倉	〇・四	四九・三	三三・三	八二・〇	一四・一	一〇・〇	九・五	三三・六	六九・六	三三三(昭一〇)
利根川	五料	〇・七	二〇・一	六・五	三三・三	一八・三	一四・一	四・八	三六・二	二七・四	一七九(大)

流域	地名	昭利十三年六月雨量				昭利十三年八月、九月雨量				計	既往最多雨量
		廿七日	廿八日	廿九日	計	八月廿日	八月廿一日	八月廿二日	九月一日		
神流川	下仁田	二・六	三六・五	四三・六	八二・七	三三・三	一四・七	一・一	一七・一	一七〇(明四)	
渡良瀬川	萬場	一〇・七	二六・三	三九・七	七六・七	三三・四	一四・七	一・二	五〇・七	三三七(大)	
秋山川	桐生	〇・七	三三・〇	九六・〇	一三〇・七	四一・四	一四・一	八・五	六三・〇	三三〇(大)	
思怒川	鹿沼	—	四三・三	一〇五・〇	一四八・三	三三・三	一〇・〇	一〇・四	五三・七	一〇〇(昭一〇)	
鬼怒川	黒部	—	四三・三	一〇五・〇	一四八・三	三三・三	一〇・〇	一〇・四	五三・七	一〇〇(昭一〇)	
大谷川	水海道	—	二〇・〇	四〇・〇	六〇・〇	一六・七	一三・〇	一三・〇	四二・七	一〇〇(昭一〇)	
小田川	日光	—	二〇・〇	四〇・〇	六〇・〇	一六・七	一三・〇	一三・〇	四二・七	一〇〇(昭一〇)	
櫻井川	宇都宮	—	三三・六	三〇・八	六四・四	一四・一	一四・一	一四・一	四二・三	一〇〇(昭一〇)	
戀沼川	祖母井	—	一八・六	一〇五・〇	一二三・六	一五・〇	一〇・一	一三・〇	三八・一	一五九(大)	
那珂川	眞壁	—	二六・三	一〇五・〇	一二三・六	一五・〇	一〇・一	一三・〇	三八・一	一五九(大)	
久慈川	鉢岡	—	二六・三	一〇五・〇	一二三・六	一五・〇	一〇・一	一三・〇	三八・一	一五九(大)	
山田川	鉢岡	—	二六・三	一〇五・〇	一二三・六	一五・〇	一〇・一	一三・〇	三八・一	一五九(大)	
山田川	鉢岡	—	二六・三	一〇五・〇	一二三・六	一五・〇	一〇・一	一三・〇	三八・一	一五九(大)	
荒川	太田	—	二六・三	一〇五・〇	一二三・六	一五・〇	一〇・一	一三・〇	三八・一	一五九(大)	
多摩川	大子	—	二六・三	一〇五・〇	一二三・六	一五・〇	一〇・一	一三・〇	三八・一	一五九(大)	
多摩川	大子	—	二六・三	一〇五・〇	一二三・六	一五・〇	一〇・一	一三・〇	三八・一	一五九(大)	
多摩川	大子	—	二六・三	一〇五・〇	一二三・六	一五・〇	一〇・一	一三・〇	三八・一	一五九(大)	
多摩川	大子	—	二六・三	一〇五・〇	一二三・六	一五・〇	一〇・一	一三・〇	三八・一	一五九(大)	

流域	地名	昭和十三年六月		昭和十三年八、九月	
		雨量	日時	雨量	日時
秋富川	檜原	三九・六	二七・〇	一一・七	三〇(昭三)
富士川	小淵澤	一六・九	一九・九	八・一	三九・六
笛吹川	横割	九〇・〇	五七・九	一七・六	三三(昭三)
荒川	三富	三三・一	一九・六	三六・九	一七〇(大三)
中津川	甲府	三九・五	二五・六	四〇・〇	一七〇(大三)
	烏屋	七三・三	二五・九	二二・四	三九・〇
		一〇六・三	四六・三	二六・五	三九・七

一時間最多雨量表

流域	地名	昭和十三年六月		昭和十三年八、九月	
		雨量	日時	雨量	日時
利根川	片湯	七・七	前八・〇〇	一四・六	九・一
吾妻川	中之條	八・五	〃 一〇・〇〇	一・九	〃 一〇・〇〇
須賀川	草津	一一・三	〃 〃 〃 〃	一〇・〇	〃 〃 〃 〃
鳥羽川	白草	一〇・一	〃 〃 〃 〃	一四・〇	〃 〃 〃 〃
碓氷川	下白草	二・二	〃 〃 〃 〃	二・八	〃 〃 〃 〃
神流川	萬仁	一三・四	〃 〃 〃 〃	一四・〇	〃 〃 〃 〃
神谷川	宇都宮	二一・八	〃 〃 〃 〃	二九・〇	〃 〃 〃 〃
大田川	日都	一五・八	前九・〇〇	二五・〇	〃 〃 〃 〃

地名	計畫高水位	最高水位		既往最高水位
		昭和十三年六月	昭和十三年八月	
鬼怒川	黒上	三〇・九	〃	〃
男湯川	湯上	二二・一	〃	〃
湯西川	足湯	一三・〇	〃	〃
思良瀬川	草足	一五・二	〃	〃
小貝川	祖草	三三・八	〃	〃
入間川	名祖	九・八	〃	〃
赤平川	小佐	一三・〇	〃	〃
利根川	佐野	一六・〇	〃	〃
富利川	栗野	一四・〇	〃	〃
那珂川	合原	二四・一	〃	〃

(四) 最高水位表

河川名	地名	計畫高水位	最高水位		既往最高水位
			昭和十三年六月	昭和十三年八月	
利根川	屋形原	〇・八	〇・九	四・〇	四・八(明治)
	下箱田	一・五	一・四	三・九	四・五(明治)
	沼之上	二・八	二・五	三・八	三・八(昭三)
	中之瀬	三・七	三・八	三・八	三・八(昭三)
	栗橋	五・六	五・〇	六・八	六・八(昭三)
		六・三	六・九	七・九	七・九(昭三)



### (五) 最大流量表

利根川	河川名	栗地	橋名	昭和十三年七月洪水	昭和十三年八月洪水	既往最大流量
	三・九九四			六・八六六	九・四四五(昭一〇)	

笛富	多中入	舊隅	荒山里										
吹土	摩	間中	田										
川	川	川	川	川	川	川	川	川					
石清水	小	立	吉	伊	小名木川	向	岩	古	佐	末	幸	機	西
和端	向	子	川	草	門	島	淵	谷	田	野	久	初	澤
三・九〇	九・八六	六・三〇	八・四五	三・九四	四・八〇	四・六〇	三・九一	七・七〇	八・四五	四・一七	五・五三	四・〇三	七・五三
二・五七	五・〇五	四・一八	三・五〇	一・六六	二・三〇	三・四七	二・四三	四・六三	二・五〇	三・三三	三・四八	三・四八	七・六八
三・九〇	四・三六	五・四六	五・〇〇	三・〇〇	一・六六	四・五六	二・八八	六・四六	八・四五	四・四五	四・一〇	三・四〇	六・九六
						五・四三			八・五三	四・一八	九・九三		
三・九〇	七・九三	三・六三	三・〇〇	二・三六	一・六四	四・三三	二・〇〇	七・九三	三・三〇	五・八〇	四・三三	三・一〇	五・四四
三・四八(大三)	七・九五(昭一〇)				一・六四(昭一〇)	五・四五(昭一〇)		八・九七(昭一〇)	四・三三(昭一〇)	四・〇〇(昭一〇)	五・〇〇(昭一〇)	四・三三(昭一〇)	五・〇〇(昭一〇)

久	江	北	霞	印	小		鬼	思	渡	神	鎬	鳥	香								
慈	戸	ヶ	藤	貝			怒		良	流		妻									
川	川	浦	浦	沼	川		川	川	川	川	川	川	川								
鹿	辰	松	關	大	井	吉	上	水	中	川	寶	高	岩	大	牛	桐	石	青	佐	布	目
島	口	戸	宿	津	上	高	郷	道	妻	島	寺	口	井	々	田	淵	原	山	原	川	吹
六・六八	六・三三	七・五三	六・五三					四・九六	六・四六	三・六九	五・九四	六・四〇	六・九〇	六・六五		二・四七	四・三六	四・一八	四・一八	七・七一	六・九七
六・一五	五・九七	五・〇七	六・〇〇	一・九六	二・八二	四・七〇	五・〇〇	四・〇六	四・〇六	二・三三	二・一〇	五・九二	三・三三	四・〇〇	一・七〇	〇・九一	一・五六	一・五三	二・七三	五・八九	五・六六
五・三〇	四・九〇	五・八九	七・三三	一・六六	一・九六	三・三〇	四・四三	六・三三	六・三〇	五・〇〇	五・四〇	七・四八	八・〇〇	四・〇〇	三・〇〇	二・二〇	一・八四	一・六〇	四・四五	七・九四	七・四四
			六・六六	三・三三	三・三三	五・六六	四・八七	六・〇六					二・三三				三・九四	三・六四		七・五三	七・〇四
四・三三	三・七三	六・八五	八・七三	二・〇〇	二・〇〇	二・三三		四・四三	四・四三	三・三三	三・三三	七・七七	七・三〇	四・七七	二・三六	一・九〇	四・七〇	三・五五	五・三三	八・七三	八・一一
六・三三(昭一〇)	六・八五(昭一〇)		八・七三(昭一〇)	二・〇〇(昭一〇)	二・〇〇(昭一〇)	二・三三(昭一〇)		四・四三(昭一〇)	四・四三(昭一〇)	三・三三(昭一〇)	三・三三(昭一〇)	七・七七(昭一〇)	七・三〇(昭一〇)	四・七七(昭一〇)	二・三六(昭一〇)	一・九〇(昭一〇)	四・七〇(昭一〇)	三・五五(昭一〇)	五・三三(昭一〇)	八・七三(昭一〇)	八・一一(昭一〇)



昭和十四年四月十日印刷

昭和十四年四月十五日發行

# 內務省東京土木出張所

東京市麴町區霞ヶ關一ノ二

印刷者

島 連 太郎

印刷所

東京市神田區美土代町一六  
三 秀 舍  
東京市神田區美土代町一六